

明治28年	1895	41	32	1	28	○天覧美術品展覧/本月13日午前10時より、御苑内の京都美術工芸学校において、天覧品の候補である絵画数十点を陳列の上、審査委員会が開催された。主要出品者より宇田主助助展覧、京都府より府展社展覧、南都京展覧館より山崎展覧および本会の幹事等が立ち合いの元に選定が行われ、西村總左衛門所蔵絵画1件を含む、20幅27件が選定され、本月16日三井副会館が広島の本家々に届けられた。(作)	○天覧美術品展覧(作)/西村總左衛門所蔵品における天覧品:岸藤助(岸助)画(墨畫)1幅	○役員會/本月5日午後2時より御苑内の京都美術工芸学校において、役員會が開かれ第1回陳列会の委員に、西村治兵衛、高岡百穂を含む7名が選定された。
			33	2	28	○シカゴ(コ)博物館へ寄贈品/シカゴ万国博覧会の事務官で、昨年の東京時に京都市にて3万円分の美術品を購入した、アメリカの美術家ボーデン(スボルデン)氏は、本会に対して同博覧会館に設立予定の博物館への美術品の寄贈を依頼した。本委員会である、池田清助、飯田新七、並河清之らとともに、西村總左衛門は美術品2件を、本月1日に横浜発の郵便で送った。4名の寄贈品価格を合計すると、2万円を超えた。(製)	○シカゴ(コ)博物館へ寄贈品(製)/西村總左衛門の寄贈品:(天鵝絨造景中の富士(横三尺五寸丈二尺七寸)1枚、(編子地花鳥の繡物(同寸法)「外縁縁色にて竹節の中線なり此内に寄贈の文字を縫にて刺はせり」1枚	○天覧美術品展覧(作)/西村總左衛門所蔵品における天覧品:(円山)位堂畫畫巻1巻
			34	3	28	○第二部長と審査官/第4回内閣勸業博覧会の第2部即ち美術品の審査官として、西村總左衛門および高藤宇兵衛が、部長の河瀬秀治を筆頭に、西村治兵衛、飯田新七、川島善兵衛、岸竹堂、今尾景年等とともに任命された。		
			35	4	28	○美術品審査員分任/第4回内閣勸業博覧会の第2部出品における審査を、西村總左衛門は第21期其四(織物織物類)、第21期其五(各種の美術工芸)、第21期其六(美術工芸に供すべき図案)において、高藤宇兵衛は第21期其一(漆器)、第21期其四(織物織物類)、第21期其五(各種の美術工芸)において、それぞれ任命された。(編)		
			36	5	28	○第二部長審査官の分任/第4回内閣勸業博覧会の審査官を、西村總左(右)衛門は、第2部第21期其四(織物織物類)において、高藤宇兵衛は、第2部第21期其四(織物織物類)および第2部第21期其五(各種の美術工芸)において任命された。(編)	○行幸(製)/「買い上げられた西村總左衛門の製品:(銅鑲風山図額) [270円]、(透天機図額) [350円]、(天鵝絨友禅金盃器台座) [850円]、(天鵝絨友禅念珠置器台座) [650円]	○(本会記事) (作)/西村總左衛門、円山心亭筆(位堂畫畫巻)一巻を出品した。
			37	6	28	○行幸/明治28年5月24日に、天皇陛下が第4回内閣勸業博覧会を訪問し、美術館において、西村總左衛門出品3件を含む複数の作品をお覧になった。(製)(編)		
			38	7	28	○美術品陳列品/第4回内閣勸業博覧会に出品された美術および美術工芸品について品評がなされ、西村總左衛門出品3件についても掲載された。(製)(編)		
			39	8	28	○(本会記事) /本月5日午後3時より、御苑内の京都美術工芸学校において、広島の本家々に送る天覧品が、西村總左衛門所蔵絵画1件を含む、13幅20件が選定された。(作)		
			40	9	28	○(本会記事) /本月17日午後3時より、京都美術工芸学校において、役員會が開かれ、美術館の活用方法に関する協議に関する委員に選出された。同会において、西村總左衛門は評議員兼第3部理事に、飯田新七とともに専任を受けた。(編)		
			41	10	28	○(本会記事) /本月8日午後7時より、紙園花見小路春楽館において、臨時陳列大会について役員會が開かれ、西村總左衛門は、飯田新七とともに新製品出品奨励委員列員に選出された。(編)		
			42	11	28	○役員會/本月12日午後6時より、紙園花見小路春楽館において、臨時陳列大会について役員會が開かれ、西村總左衛門は、飯田新七とともに図書審査委員に、高藤宇兵衛は会場警備委員にそれぞれ選出された。		
			43	12	28	○買取家へ勧誘/本月25日午後1時より、本会事務所にて本会第2部および3部に所属する実業家を、10月15日より開設される新古美術品展覧会への出品の勧誘が行われた。高藤宇兵衛は第3部委員である西村總左衛門の代理として、廣岡伊兵衛、瀧川藤兵衛らとともに協議を行った。		
			44	1	28	○陳設/第4回内閣勸業博覧会の評文において西村總左衛門のピロッド友禅および刺繍について記述された。「博覧会ニ於ケル我邦ノ美術工芸 中(二) 織物 染物 刺繍/染物ノ紗技ハ友伝ニ在リ、或ハ遺傳ニ、或ハ天賦ニ、或ハ新書ヲ染出シテ筆毛モ及ハス、即チ西村總左衛門氏ノ猛虎図等ノ如キ、金盃寺寫真圖等ノ如キ、色々出テ、色々精ニ、實ニ驚異ノ可キモノアリ、京都友伝ノ名ノ海外ニ馳名タルモ俄然ニ蘇ルナリ、刺繍ノ能ハ、近來進歩シク、今ハ亦是レ京都ノ一特長ト成リタルノ觀アリトス、技中西村總左衛門氏ノ此技ニ於ケル、尤モ有名ナルノミナラス、實ニ此ノ技ヲ進メテ偉大ナル技術トシタル人ト謂フ可シ、乃チ吾輩ノ言ノ欺カサルハ、已ニ彼ノ異才ヲ觀テ驚異ノ大觀ニ於テ、世人ノ驚異ヲ稱シタルニテ明白ナリ」		
			45	2	28	○事業調査の審査/本月9日午前9時より、第4回内閣勸業博覧会場美術館における新古美術品展覧会場の設案において、事業調査の審査會が開かれ、西村總左衛門の代理として高藤宇兵衛が、飯田新七らとともに出席した。西村總左衛門は飯田新七とともに刺繍図案の審査を担当した。審査対象はそれぞれ、織物図案58枚、染物42枚、刺繍2枚であった。(編)		
			46	3	28	○記念功勞者へ贈品/京都市に三ヶ年の事業として「三大事件」のひとつに挙げられていた、「平安建都一千百年記念額」が滞りなく終了したことを受けて、当初より協賛会を起こすなど尽力した各担当者に記念品が寄贈された。記念品のひとつとして、西村總左衛門は(林草植物標本立)を贈呈し自費土方欠元へ帰った。(編)		
			47	4	28	○天井張の編織と七賢の大観/東京の常盤橋外に建築中の日本館において、西村總左衛門は壁土等並の台天井に用いる(朝に風風扇の編織)を製造した。		
			48	5	28	○協賛會の各委員/本月19日午後6時より、京都俱樂部において役員會が開かれ、4月1日から開設される美術品展覧会における各委員の選定が行われた。西村總左衛門は、刺繍出品奨励委員の主任に、高藤宇兵衛は染物出品奨励委員に選出された。(編)		
			49	6	28	○美術品展覧會審査員/本月17日に、新古美術品展覧会の審査長、審査幹事、審査員が京都市参事會により職託された。西村總左衛門は、田中利七および小林久次郎とともに刺繍の審査員の職託を、高藤宇兵衛は、廣岡伊兵衛および岡崎伊三郎とともに染物の審査員を、それぞれ受けた。(編)		
			50	7	28	○委員會/2月22日午後6時より、京都俱樂部において、織物刺繍染物系組物の各部委員會が開かれた。西村總左衛門は欠席し、田中利七が該事の協議を行った。		
			51	8	28	○審査員總會/本月8日午前10時に、美術品展覧の審査會において審査員總會が開かれ、審査に係る各部長12名が選定された。西村總左衛門は刺繍部長に、高藤宇兵衛は染物部長に選定された。※48号にて追加情報あり(編)		
明治29年	1896	42	44	1	28	○特別報告下欄/4月29日に、昨年の第4回内閣勸業博覧会で審査官を務めた功勞者に対して、賞状より額1個が下賜された。西村總左衛門は、元第4回内閣勸業博覧会審査官として、以下の表彰文とともに額1個を下賜された。「明治廿六年臨時博覧會事務局長評議員と爲り明治二十八年第四回内閣勸業博覧會審査官と爲り同期評定能く職務に励み其勞多からず於て其賞として額一賞下賜す」同じく、高藤宇兵衛は「明治二十四年臨時博覧會事務局長評議員と爲り同期評定能く職務に励み其勞多からず於て其賞として額一賞下賜す」と記された額1個を与えられた。(編)		
			45	2	28	○新古美術品展覧會参考目録/新古美術品展覧会に、西村總左(右)衛門は書畫の部で3件、漆器の部で1件、織物の部で2件を出品した。また、各部の審査員について『京都美術協会雜誌』46号および47号に掲載の情報が不足・変更があり、本誌で再度審査員が掲載された。西村總左衛門は刺繍部長の職託、および田中利七、小林久次郎、安田新造とともに刺繍部審査員の職託を、一方、高藤宇兵衛は染物部長および、廣岡伊兵衛、岡崎伊三郎、瀧川藤兵衛とともに染物部審査員を受けた。(作)(編)		
			46	3	28	○特別報告下欄(編)/その他に額書を下賜された。主な功勞者は、西村治兵衛および川島善兵衛。		
			47	4	28	○新古美術品展覧會参考目録(編)/その主な審査員として、飯田新七は織物部長および西村治兵衛とともに織物部審査員、岸竹堂および今尾景年は給品部審査員にそれぞれ選定された。		
			48	5	28	○新古美術品展覧會参考目録(編)/その主な審査員として、飯田新七は織物部長および西村治兵衛とともに織物部審査員、岸竹堂および今尾景年は給品部審査員にそれぞれ選定された。		
			49	6	28	○新古美術品展覧會参考目録(編)/その主な審査員として、飯田新七は織物部長および西村治兵衛とともに織物部審査員、岸竹堂および今尾景年は給品部審査員にそれぞれ選定された。		
			50	7	28	○特別報告下欄(編)/その他に額書を下賜された。主な功勞者は、西村治兵衛および川島善兵衛。		
			51	8	28	○特別報告下欄(編)/その他に額書を下賜された。主な功勞者は、西村治兵衛および川島善兵衛。		

				1				
				2				
				3				
				4				
				5				
			47	6	25			
				7				
				8				
				9				
				10				
				11				
			48	12	30			○美術工藝界日誌/大正7年11月22日に、光悦祭茶会が開催された。大正8年3月12日に、飯田呉服店の百選会展覧が行われた。
大正8年	1919	65						
大正9年	1920	66						
大正10年	1921	67						
大正11年	1922	68						
大正12年	1923	69						
大正13年	1924	70						
大正14年	1925	71						
昭和元年	1926	72						
昭和2年	1927	73				9月 12代西村總左衛門に昭授賞章が授与された。 (日付不明) 雲内省から、御大礼用小銃種10枚の調製を拝命した。		
昭和3年	1928	74						
昭和4年	1929	75						
昭和5年	1930	76						
昭和6年	1931	77						
昭和7年	1932	78						
昭和8年	1933	79						
昭和9年	1934	80						
昭和10年	1935	81				5月26日、12代西村總左衛門が没する(81歳)。 従六位に叙された。		